

「孫と学ぶ学校英語」はいかが？

私は現在、地元昭島市が主催する「イキイキ・ニコニコ介護予防教室」の一環としての「英会話教室」の講師を他の何人かと務めています。教室には「入門」と「初級」があり、受講生は65歳以上の男女ですが、海外旅行に役立てたいとか異文化を学ぶことでとても楽しんでいる様子が伺えます。

私が担当する「入門」コースの教材には、昭島市の中学校で使っている「TOTAL ENGLISH」の1年生用を使っています。実は、私自身は地元の中学校でも、クラスについていくのが難しい生徒の英語を1対1で指導していますが、60年前に自分が中学生だったときのテキスト「JACK AND BETTY」に比べると比較にならないくらい良くできているのがわかります。

訳読のみでなく文法から会話、英語の歌までとても立体的に編集されている。しかも、扱っている内容が現時点に即したテーマで、生徒にとっても楽しい話題が多いのです。1年生の教科書の最後の項では、「クラスのあの娘（こ）が好きだ」という男の子の淡い恋に似た教材まで登場しているのです。



ということで、大人の英会話教室では、お互いに半世紀以上も前に習った文法のおさらいをしながら、国内に住む外国人と会話をしたい、海外旅行である程度の英語を使ってみよう、といった受講生の皆さんに応えられるような講座を心がけているところです。

もう一つは、孫とのスキンシップに役立てれば、との講師としての思いがあります。受講生は孫がちょうど小学生から中学生ほどになるケースが多い。一昨年からは必修になったばかりの小学校の英語が今度は正式教科となろうとしています。この年齢の子供を持つ家庭ではいろんな思いをしている保護者もいるのではないかと推測するのです。英会話学校や塾はお金がかかる。仕事で多忙を極める父親、塾の費用を稼ぐために母親はパートに出ている子供の面倒を見ている時間がない。



そこで提案したいのが祖父母の出番なのです。教科書の内容は中学校レベルまでだったら、勉強をし直せばなんとか教えられる人も多いと思います。昔とった杵柄で孫の英語の面倒をみる。「お爺ちゃん、ここ教えて!」「英語ができるお婆ちゃんなんてスゴイ!」なんて孫から頼りにされたら本当にすごい。家族内での株もグッと上がるのではないのでしょうか。「孫に教える」なんておこがましければ「孫と学ぶ学校英語」。自身の脳トレにもなり一挙両得です。

もしこれが定着すれば、高額な塾の費用でアップアップしている全国の家庭に応援の一石を投じることができるかもしれない、なんて大きな期待もあるのです。ですから「お孫さんのためにも頑張りましょうよ」と受講生に声をかけ、関係者にも呼びかけているところなのです。